

ようこそ畑へ

2012年5月13日（日）

ファーム伊達家・旬の野菜セットに、お申し込みをいただきありがとうございました。畑では、4月10日には60～70センチあった雪が一気に融けて、畑おこしやビニールハウス内での種まき作業が始まっています。

野菜のお届けは6月下旬からですが、野菜より一足早く、ファーム伊達家からのおたより「ようこそ畑へ」（VOL.1）をお届けします。

【寛記】

4月10日で冬のアルバイトを終えた僕は、翌11日の早朝、新千歳空港へ向かいました。東京で知人に会い、12日は、ナチュラル・ハーモニーの河名さんをお願いして、千葉県で自然栽培をしている高橋博さんの農場に連れて行っていただきました。高橋さんの農場へは2度目の訪問です。高橋さんは、自然栽培の第一人者で、大根やニンジンなどを作っています。

会員募集の御案内にも書きましたが、昨年一年間のことやこの冬のいろいろな出来事を通じて、もう一度、自分の「原点」や「初心」を確認する必要があると感じていたので、そういう思いで高橋さんの農場を訪問しました。

高橋さんは、開口一番「自然栽培は簡単なことなんだよ。種と土から肥毒を抜いて行けばいいんだよ。」、そして、「でも、この簡単なことが、なかなかわからなくて、迷い道に入っていく人が多いんだよ。」ともおっしゃいました。

自然栽培は、化学肥料、有機肥料などを用いて人間が養分供給することなく、日と水と土のエネルギーをいただいて作物を育て、その結果、作物は健康に育ち、農薬を必要としなくなる、というのが基本的な考え方です。

ただし、そのためには、これまで人間が畑に投入してきた肥料や農薬（これを自然栽培では「肥毒（ひどく）」と呼びます。）を取り

除いていかなければならない、それをしない限り、本来の自然栽培は実現できない、というのが高橋さんのお話の趣旨でした。

高橋さんの畑は、草はほとんどなく、作物だけが育つ畑になっており、それは、10年近くかけて肥毒を抜く方法を研究し、麦などイネ科の作物を使って土を浄化していく方法を確立して、肥毒を抜いてきたからだということでした。この肥毒を抜いていくことを、高さんは、「過去の清算」とおっしゃっていました。

この話は以前にも一度聞いた話です。しかし、改めて高橋さんの農場に身を置き、高橋さんから改めて直接お聞きすることで、もう一度僕の心に深く刻みこむことができたように思います。高橋さんからは、北海道で肥毒を取り除くことを徹底して、本来の自然栽培を実現している農家は少なく、ぜひ、そういう農家が増えるよう願っているというお話もありました。

昨年、伊達家の畑では、土の浄化を願って麦類を植えたところがあります。今年は、そのあとに豆類などいくつかの作物を植えて、生育を見て行きたいと考えています。高橋さんのお話は明快で分かりやすいのですが、それを自分のものにするには、実際に自分でやってみて、作物や畑から学んでいくことが必要だと思います。まだまだ、ほんの一部ですが、作物の生育の様子を見ながら、伊達家の畑の過去の清算を進めていきたいと思っています。

今シーズンも、皆さんと畑の恵みを分かち合いながら、究極の自然栽培を目指して、地道に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【愛子】

今年もファーム伊達家を支えて下さり、本当にありがとうございます。お陰様で、8年目の春を迎えました。

8年目という長いような気もしますが、まだ8回目のお野菜作りが始まった—という感覚のほうが強く感じる春です。

この春は雪融けが一気に進みました。四月の上旬では、雪がたくさんあり、“いつ、融けるの？”“作業が遅れそう…”とっていました。ところが、雨の日や気温が高かった日が続く、あつというまに融けて、慌てたふきのとうが顔を出し、そして、一気に大きく花

開いていました。

かえるたちも、毎年集まっている、橋の下にやってきて(多い時で、8匹!)、お話をしていたり、そして、今年も大量の卵を産んでいました。次男は、水路に顔を近づけ、今までに見たことがない小さなドジョウをたくさん見つけていました。

ハウスの中は、種まきした箱が日々、増えていき、並んでいます。既に発芽のよいもの、そうじゃないものがあります。数々の失敗を思うと、種まきした量はこれで足りるかな～、元気に順調に育ってね～、美味しく豊作でありますようにと強く願います。

去年は遠くでも身近でも自然災害があり、自然の前では、人は無力であることを感じました。と同時に多くの方に支えられて、なんとか乗り越えることができて、今この春を迎えていることに感謝です。

今、また遠くでは竜巻、近くでは、大雨のため、中山峠通行止めと、昨年のことを思い出すようなことがおきています。やはり、何が起るかわからないなあと実感する中、今自分にできることは、命を支えること、食べること=生きることをしっかりお届けできるように、無肥料無農薬で種採りしながら、美味しいお野菜をたくさん作りたいと思います。

是非、畑に遊びに作業しに来てください。お待ちしております。
今年もよろしく申し上げます。

この冬の間を読んだ本をご紹介します。

【NASAより宇宙に近い町工場】

(著者/植松努 出版社/デイズガァー・トゥエティ)

以前から、一度お話を聞いてみたいと思っていた、植松努さんの講演会に行ってきました。講演の内容は、この本にほぼ全て書かれています。

植松さんのインタビューが以下のサイトに掲載されていますので、興味のある方はご覧ください。

<http://passion-web.jp/forum/performer/uematsu.php>

「船井総研 植松努」で検索してみてください。

【減速して生きる ダウンシフターズ】

(著者／高坂勝 出版社／幻冬舎)

お金中心、経済至上主義の生活から、ゆっくりと生活を楽しみながら、必要なものとそうでないものを見分け、ほどほどに稼ぐ生活へシフトした著者の体験談をベースに、一人一人の生き方を変えることにより、社会を変えて行くことを提案しています。

【愛子】

生きること、働くことを見つめ直すことができました。もっともっと自然と向き合っていきたいと思いました。

もし、今の生活を少し変えたいという方は読んでみてください。

【寛記】

高橋さんは「作物を育てるには肥料が必要」、植松さんは「宇宙開発は町工場では無理」、高坂さんは「生活を豊かにするには収入を増やさなければならない」、という思い込みを打ち破って、新しい道を切り開いています。

今まで当たり前だと思っていたことを、一つ一つ見つめ直していけば、もっとシンプルで豊かな生活ができるかもしれないと思いました。